平成２９年度　発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業
（通級による指導担当教員等専門性充実事業）
成果報告書

実施機関名（ 秋田県教育委員会 ）

1. テーマ

「発達障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導」及び「通級による指導を在籍学級等へ生かすための連携」の要点を明らかにし、全県域で共有する実践研修の取組

2. 問題意識・提案背景

本県の通級による指導に共通する実践上の課題は、「発達障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導内容や効果的な指導方法を見いだすこと」、「通級による指導の成果を在籍学級等へ生かすための連携体制を構築すること」の 2 点である。この課題の背景には、通級による指導担当教員の指導経験に差があることや、発達障害に関する専門的な研修や情報交換の場が限られていること、在籍学級との連携に関する体制整備が途上にあることなどがある。このため、実態把握や指導方法の検討、在籍学級等との連携等が不十分なまま、文献・資料等を参考に手探りで指導を行っているケースがある。優れた実践を知りその要点を共有することで、担当教員の資質向上が図られるとともに、効果的な連携を可能にする校内外の体制整備が促進されると考えた。

3. 目的・目標

1. 目的

通級による指導担当教員の研修支援を通して、発達障害等に係る効果的な指導方法を見いだすとともに、通級指導教室と在籍学級等との連携体制の構築を図る。

2. 目標

（1）通級による指導担当教員の専門性として、特に実態把握から個別の指導計画の立案に至る過程の要点や効果的な指導方法を見いだし共有する。
（2）在籍学級との連携について、実行可能で効果的な方策を共有する。

4. 主な成果

1. 取組状況

（1）教育委員会における研修体制づくりと研修の実施状況

研修は、①拠点校訪問研修（授業研究会・協議、6 校で各 2 回実施：参加者累計 299 名）、②公開研究会（講義・演習：参加者 87 名）、③拠点校教員の先進地視察（東京都 3 校、横浜市 3 校）を実施した。また、拠点校訪問研修の効果的な実施のため、指導主事・特別支援学校教員からなる研修支援チームを設置し、専門家による指導・助言を踏まえて課題解決に向けた要点を整理した。

（2）通級指導専門性充実検討会議の設置・運営状況

県内 3 地区に設置した研修支援チームによる会議を各 3 回実施し、拠点校訪問研修の取組を踏まえ、専門性向上や連携体制構築に向けた要点をまとめた。

2. 成果

(1)「通級による指導担当教員の専門性向上」については、実態把握の要点と指導計画の立案に至る過程を再確認した。これにより指導目標・内容が絞り込まれ、目標達成の目安が明確になるなど改善が図られた。また、授業研究会を通して障害特性に応じた指導の要点を共有できた。

(2)「在籍学級との連携体制構築」については、通常の学級における学習上又は生活上の困難を改善・克服する観点から計画・評価することや、指導記録の閲覧や情報交換会など実行が容易な連携方法を共有できた。

(3) 拠点校訪問研修に、通級による指導担当教員だけでなく、管理職や学級担任、関係市教育委員会など多くの関係者が参加したことで共通理解が図られ、校内外の体制整備や連携推進に対する意識が向上し、一部の学級や市教育委員会ではあるが、具体的な指導・支援や連携の改善につながった。

5. 通級による指導における専門性のポイント

本事業で見いだした通級における指導担当教員として求められる専門性は、次の 5 点である。

要点①　在籍学級等における学習上又は生活上の困難を改善・克服する観点からの実態把握と生育歴を含めた背景情報を収集できること

要点②　自立活動の「流れ図」に基づき、課題の分析・整理及び計画を立案できること（実態に即した評価しやすい具体的な目標と内容の設定）

要点③　効果的な支援の実現と主体的な解決を促す指導を具体化できること（特性の理解と方略の発見及び活用促進）

要点④　関係者に対し、指導・支援の見通しを示して役割分担したり、共同して計画・評価などを行ったりするなど、効果的な指導・支援方法を共有できること

要点⑤　通常の学級における指導・支援の実践をサポートできること

6. 拠点校における取組概要

拠点校 6 校に各 2 回訪問し、授業研究会と協議を通して、次の 4 つの研究課題について検討した。

1. 通級による指導開始時における目標の設定及び適切な評価の在り方の研究

実態把握は、保護者や関係者、本人より生育歴や在籍学級等における状況等の情報を丁寧に収集した。個別の指導計画の立案に当たり、自立活動の「流れ図」を用いて課題を分析・整理し、評価しやすい具体的な指導目標を設定した。具体的な指導・支援内容を関係者で共有するとともに、目標については児童生徒本人とも共有することの重要性を確認した。

評価に当たっては、在籍学級等での状況を把握し指導の効果を評価した。要点として、児童生徒による自己評価も行い、主体性を育みながら自己の特性と課題解決の方略について理解を促すことを確認した。

2. 通級による指導担当教員が通常の学級の担任との連携を深化させるための専門性の在り方の研究

学級担任や学年部の教員等と共に指導計画を作成することで、学級に加え、部活動や全校での活動など、学校生活全般を通して共通理解に基づく指導を推進した。指導計画の立案・評価を協働で行うこと、日常的に教材・教具や指導記録を共有すること、機会を設けて情報交換すること、相互に授業参観をすることなどの有効性を確認した。

3. 発達障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とする指導方法の研究

環境や状況が自己に与える影響を理解して対処方法を検討したり、自他の認識のずれに気付いたりする学習など、直面する課題や予想される困難に具体的に対応する学習方法を共有した。また、不得手な点を補うためにタブレット型端末を活用したり、考えを可視化したりすることで理解を促しながら、主体的に表現し課題を解決する力を育む指導の在り方を見いだした。

4. 発達障害の状態に応じた各教科の内容を取り扱う際の「特別の指導」方法の研究

国語や理科、英語等の教材を用いて各教科の内容理解を促しながら、文字を正しく見分ける力を育むとともに、視覚的なトレーニングや点結びによる図形の模写課題等と組み合わせることで、見る、書くことの課題の改善を図った。児童生徒が抱える困難を改善・克服する学習では、意欲をもって取り組めるように教材を工夫したり、課題量を調節したり、スモールステップ化したりするなどの工夫が有効であった。

7. 今後の課題と対応

課題①　平成29年度得られた成果を全県域で共有すること

→拠点校の指定地域を替えて実施することで周知を図る。指導や連携に係る優れた実践やその要点を事例集にまとめ、研修に活用するなどして実践の改善を促す。

課題②　優れた実践や研修を継続して支える体制を整備すること

→「実践や研修を継続して支える体制」については、県で行う複数の研修会において、共通の資料を用いて相互に関連付けた研修を行う。また、本事業の研修支援チームで行った研修支援の内容や方法をまとめ、既存の体制で対応できるよう検討する。

課題③　教員が学び合える地域ネットワークを構築すること

→「地域ネットワークの基盤づくり」については、本事業を通して各地区・地域における拠点校としての情報発信ができた。これを基盤として拠点校を中心とした地区・地域のネットワーク化と連携を促進する。

通級による指導担当教員と在籍学級担任との連絡会議を平成30年度に設ける取組など、有益な実践を関係市教育委員会と共有する。

8. 拠点校について

拠点校名：能代市立第四小学校

	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	83	3	91	3	85	3	94	3	94	3	85	3
特別支援学級							3		2		1	
通級による指導（対象者数）			(4)		(3)		(5)		(3)		(2)	

	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	24	2	2	0	2	6	0	10	48

拠点校名：男鹿市立船川第一小学校

	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	27	1	32	1	31	1	24	1	45	2	32	1
特別支援学級	1								3			
通級による指導（対象者数）	(6)		(4)		(3)		(2)		(4)		(3)	

	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	13	1	2	0	1	2	0	5	26

拠点校名：大仙市立花館小学校

	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	68	2	75	3	69	2	61	2	61	2	68	2
特別支援学級	2		3		2		3		1		3	
通級による指導（対象者数）	(9)		(13)		(12)		(2)		(8)		(3)	

	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	19	1	4	0	1	10	0	3	40

拠点校名：北秋田市立鷹巣南中学校

	第1学年		第2学年		第3学年	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
通常の学級	37	1	34	1	30	1
特別支援学級	1				1	
通級による指導（対象者数）	(6)		(6)		(6)	

	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	12	1	1	1	1	2	1	3	24

拠点校名：にかほ市立仁賀保中学校

	第1学年		第2学年		第3学年	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
通常の学級	89	3	113	4	98	4
特別支援学級	4		2			
通級による指導(対象者数)	(1)				(1)	

	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	22	1	3	1	1	4	1	9	44

拠点校名：湯沢市立湯沢南中学校

	第1学年		第2学年		第3学年	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
通常の学級	114	4	102	4	104	4
特別支援学級	3		5		3	
通級による指導(対象者数)	(4)		(7)		(5)	

	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	25	1	5	1	2	3	1	2	42

9. 問い合わせ先

組織名：秋田県教育庁

(1) 担当部署　　特別支援教育課　指導班

(2) 所在地　　秋田県秋田市山王三丁目１番１号

(3) 電話番号　　0185－860－5135

(4) FAX 番号　　0185－860－5136

(5) メールアドレス　　tokubetu@pref.akita.lg.jp